

レスポンシブル・ケア 2016

JSR四日市工場レポート



Materials Innovation



JSR株式会社
可能にする、化学を。

レスポンシブル・ケア 2016



もくじ

四日市工場方針の環境・安全衛生基本方針	1
四日市工場の製品はどのようなものがありますか？	2
四日市工場では2015年度はどのような活動をしましたか？	4
安全確保のためにどのような活動をしていますか？	6
健康で安全に働くためにどのような活動をしていますか？	8
物流安全及び化学品・製品安全のためにどのような活動をしていますか？	10
環境保全のために何をしていますか？	11
地域社会への取組はどのようなことをしていますか？	18
四日市工場のあらまし	21



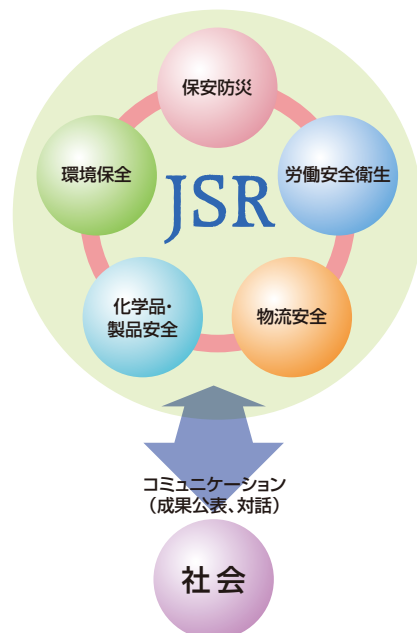
レスポンシブル・ケアとは どのようなものですか？

レスポンシブル・ケアとは、英語の『Responsible Care』を語源とし、『責任ある配慮』と訳されています。化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、輸送、使用を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動です。

レスポンシブル・ケアの実施方法



レスポンシブル・ケアの実施項目



地域社会に根ざす化学メーカーとして、 環境・安全を確保し共生を図ります

環境方針

1. 工場の活動、製品及びサービスが環境に影響していることを認識し、地域社会、顧客及び従業員の環境・安全を確保し、社会との共生を図る。
2. 工場環境マネジメントシステムを維持・向上し、継続的な環境改善を推進し、環境負荷の低減に努める。
3. 関連する環境の法規制、及び工場が同意するその他の要求事項を遵守する。
4. 環境活動への先進的な取り組みを進め、積極的に情報公開をし、広く社会の意見を取り入れ、企業価値の向上を目指す。

2016年4月1日
JSR株式会社 四日市工場長

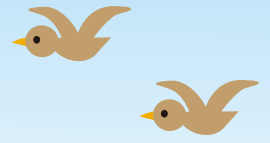
安全衛生基本方針

1. 安全第一、全員参画の安全活動を行い事故・災害を防止する。
2. 工場安全衛生マネジメントシステムを着実に実行すると共に改善に努める。
3. 関連する安全衛生の法規制及び工場が同意するその他の要求事項を遵守する。
4. 職場環境の維持向上と、従業員の健康増進に努める。
5. 本方針は、全ての就業者に周知し、理解させると共に、適切に実施し維持向上に努める。

2016年4月1日
JSR株式会社 四日市工場長



四日市工場の製品は どのようなものがありますか？



潜熱蓄熱材料「CALGRIP®」

一定の温度を保つ性能に優れているため、精密材料の定温輸送や、住宅の省エネに利用できます。



メディカルポリマー

医療用品に用いられる高品質な材料を提供しています。



エマルジョン

紙のコーティング材や塗料として活用され、建築外装材塗料にも利用されます。



耐熱透明樹脂「ARTON®」

光学的用途(光学フィルム、導光板、光学レンズなど)に最適な高機能樹脂です。



合成ゴム

低燃費・高性能タイヤなどに使用されます。



JSRグループのマテリアルは、さまざまな製品の素材として使われています。さらに今、石油化学系事業やファイン事業などで培ってきた技術や人材と、グローバルに社内外の力を結集することで、環境・エネルギーや医療材料など、社会課題の解決を目指した新しい事業に、戦略的に取り組んでいます。

僕の名前はエコ分子くん。
僕がついているものは、
JSRグループの
環境配慮型製品です。



(E2 イニシアティブ® 浸透イメージキャラクター)

熱可塑性エラストマー「ダイナロン®」

文具、医療用バッグなどの透明軟質フィルム、チューブなどに使用されます。



電池材料

リチウムイオン／ニッケル水素二次電池の材料を開発しています。



ABS樹脂

自動車部品、電気器具などに幅広く使用されます。



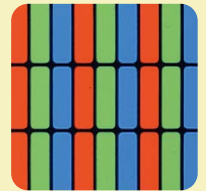
バイオ樹脂「BIOLLOY®」

植物由来材料の配合により、CO₂の削減に貢献します。化粧品のプラスチック容器などに使用されます。



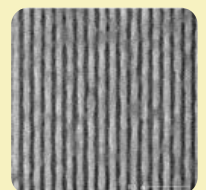
LCD材料

液晶ディスプレイ(LCD)パネルの色を表示するための着色レジスト「オプトマー®CR」、液晶の配列を整える配向膜「オプトマー®AL」などを提供しています。



リソグラフィ材料

半導体の回路形成、高密度化に欠かせない高解像度フォトリソグレイスを提供しています。



四日市工場では2015年度はどのような活動をしましたか？

レスポンシブル・ケアの実施項目

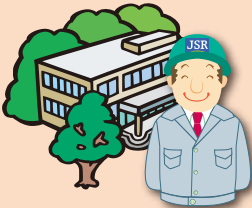
1



保安防災

事業場の火災、爆発、及び化学物質流出事故の防止を推進し、より信頼感のある事業所作りを目指します。

2



労働安全衛生

労働災害の撲滅、潜在的危険性の低減、健康増進と快適な職場環境の形成を促し、もって事業場の安全衛生水準の向上を図ります。

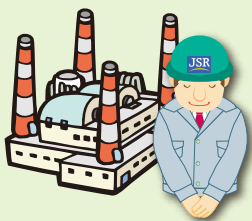
3



物流安全

事業場の従業員、輸送業者、集配業者、請負業者、並びに環境に及ぼす化学品の流通時のリスク軽減に努めます。

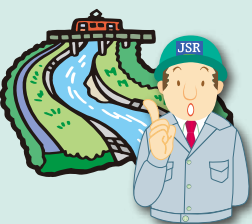
4



化学品・製品安全

製品の全ライフサイクルに渡ってリスク管理を図ることにより、全ての利害関係者の環境・安全・健康の推進に努めます。

5



環境保全

事業活動に伴い大気、水、土壌に排出される全ての化学物質の排出量並びに廃棄物の発生量を継続的に低減させることに努めます。

6



社会への公表

製品の全ライフサイクルにわたる環境・安全・健康に係わる情報を地域社会に提供すると共に、従業員並びに地域社会に対する環境・安全・健康に関する正しい知識の普及に努めます。

JSRの企業理念・経営方針及び四日市工場の環境方針・安全衛生基本方針に基づき、具体的な活動計画を策定し、レスポンシブル・ケア活動を推進しています。

2015年度の四日市工場の取組み状況と実績をご紹介します(一部2016年度の活動を含んでいます)。

四日市工場の2015年度実績

関連ページ

- 原料漏洩を想定した総合防災訓練、津波を想定した避難訓練等、各種防災訓練を計画的に実施しています。
- 全国安全週間に合わせて、四日市工場安全大会を開催し、社員の安全意識向上を図っています。
- 工場長現場パトロールを計画的に実施し、工事現場・製造プラントの安全保守に努めています。

P6~7

- 「安全衛生基本方針」に基づき安全改善活動を推進し、職場環境の維持向上と従業員の健康増進等に取り組んでいます。
- 安全衛生教育として、安全体感訓練装置の充実化に合わせ、積極的に教育を実施しています。
- 総合災害防止協議会(災防協)では協力会社員の健康と安全のために取り組みを行っています。

P8~9

- 輸送時の環境・安全を確保するために、連絡先や応急措置について簡潔にまとめた緊急連絡カード「イエローカード」を発行しています。また、運転手へイエローカードを常時携帯させるとともに、定期的な安全教育を実施しています。

P10

- 製品の安全確保及び使用化学物質のグリーン化を進めるために、化学物質を4つの区分に分類して管理する「JSR化学物質管理指針」を作成し運用しています。
- 製品の設計段階から製品の安全確認を行い、製品安全の確保に努めています。
- PRTR対象化学物質の排出削減を計画的に推進しています。
- 顧客に試作品や製品について、最新版のSDS(化学物質安全性データシート)を提供するため、SDSを電子管理システムで維持管理し、運用しています。

P10

- 大気汚染物質(硫黄酸化物、窒素酸化物)の低減のために、ボイラーの排ガス対策を継続しています。
- 水質規制強化に向けて、継続的に排水の水質向上に努めています。
- 廃棄物の適正管理を行い、2015年度もゼロエミッション(廃棄物発生量に対し、埋立量を0.1%以下)を継続しています。
- 工場内の環境保全設備の管理の徹底、新規技術の設備化、潜在的な問題の発掘・対策を継続しています。

P11~17

- 工場版レスポンシブル・ケアレポートによる情報の公開など、地域の皆様とのコミュニケーションを図っています。
- 工場周辺の清掃活動の実施や近隣地区の河川清掃活動への参加、伊勢湾漂着物清掃の一環として答志島の清掃活動に参画しました。
- 社会貢献として、献血活動や児童養護施設へのボランティア活動等を行っています。
- 三重県や四日市市の要請に応え、小学校や中学校の理科授業や環境教育及び中学生、高校生の体験実習を受け入れています。

P18~20

四日市工場では安全確保のために どのような活動をしていますか？

各種防災訓練の実施

四日市工場では、原料や製品として大量の高圧ガスや危険物を取扱っています。そのため、安全操業を万全なものとするために法律で定められている以上の安全対策をハード、ソフトの両面から自主的に実施しています。又、消防車、消火設備などの防災機器を有するだけでなく、コンビナート内の近隣企業と共同防災協定を結んで相互応援体制を築いています。さらに、四日市地区のグループ企業で災害が発生した場合でも、通報連絡の迅速化、近隣にお住まいの方への広報活動の実施等、あらゆる災害を想定した各種の防災訓練を計画的に実施しています。

[2015年度実績]

訓練名称	訓練内容	対象者	年間実施回数
総合防災訓練	実際の火災を想定した、工場全体での訓練	全従業員	3回
各課との合同防災訓練	初期防災活動	各課員	7回
AED取扱い訓練	AEDの使用方法、心臓マッサージ等の救命訓練	各課員	16回
実火消火訓練	実火を使用した消火器による消火訓練	各課員、協力会社員	13回
通報・避難・規律訓練	迅速な通報、連絡を行う訓練	各課員	9回

日頃の訓練が
大切です。



●総合防災訓練

公設消防と合同で原料漏洩を想定した総合防災訓練を実施しました。



●津波を想定した避難訓練

公設消防の指導の下に避難訓練を実施しました。避難経路に沿って集合し点呼を行った後、指定の避難場所に避難しました。



●大規模地震対策

1980年度より、耐震評価基準を震度6弱として設備の補強と地盤強化対策等の地震対策を計画的に行ってきました。更に、東日本大震災により、自主的に耐震評価基準を震度6強(600ガル)として、耐震補強を原料保管用の球形タンク全19基(11基完了)、冷媒に使用しているアンモニアの大型タンク全6基(4基完了)を2018年度完了を目標に推進しています。



四日市工場安全大会

全国安全週間にあわせて四日市工場安全大会を開催しています。

安全大会では工場長からの工場安全活動の報告と共に、安全標語・ポスターの表彰、安全講演の開催等により社員の安全意識の高揚を図っています。



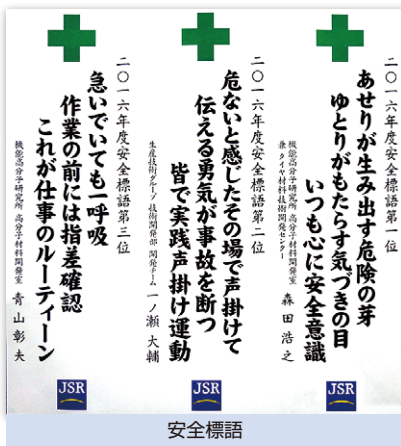
工場長安全訓話



安全標語・ポスター表彰



“地震・津波防災を考える”安全講演



安全標語



安全ポスター



工場長現場パトロール

工場長主催の現場パトロールを実施し、「決められた事、決めた事は確実に守られているか」「不安全箇所・不安全作業はないか」など工場長自ら現場を定期的に確認しています。



製造プラントの安全確認



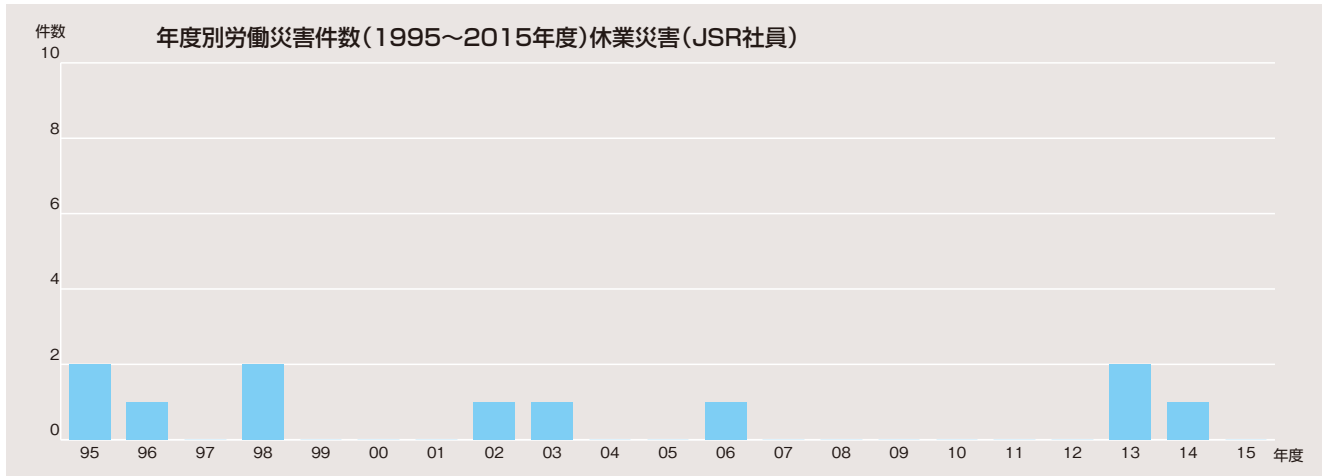
パトロール後の安全対話

健康で安全に働くために どのような活動をしていますか？

労働災害防止への取り組み

四日市工場では「安全衛生基本方針」に基づき安全改善活動を推進しています。

推進にあたっては、安全衛生マネジメントシステムの着実な実行、関係法令の遵守、職場環境の維持向上と従業員の健康増進、リスクアセスメント、安全衛生教育の充実等を重点とし取り組んでおります。



安全衛生教育

各職場において、各種安全衛生教育を実施しています。

特に、本年度は安全体感訓練装置の充実化に合わせ、安全体感指導員(講師)の育成にも積極的に取り組み安全教育の更なる充実化を図っています。



回転体巻き込まれ体感装置



被液体感装置

健康支援

従業員が健康で働けることをサポートするために様々な施策を実施しています。就業前のラジオ体操に加えインストラクターによる健康体操、協力会社の方々が多数集まる定期修繕中の現場朝礼で転倒予防体操を始め、転倒災害を無くす安全風土として取り組んでいます。



健康体操



転倒予防体操

協力会社員の皆さんの健康と安全に関して、 どのような活動をしていますか？

総合災害防止協議会(災防協)の安全への取り組み

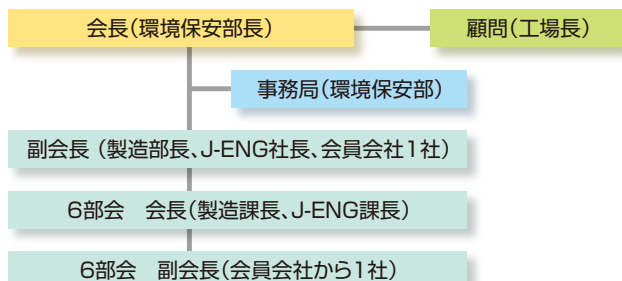
JSR災防協とは

四日市工場に関係する協力会社の「安全協力会」として1960年に発足しました。1967年に現在の名称である「総合災害防止協議会」(通称:災防協)に改名しました。会員会社数は、発足当初の29社から、2016年8月末現在は56社が加盟しています。

災防協の定義

四日市工場の構内、または構外の会社施設に於いて、工事、若しくは作業を行う協力会社が、労働安全衛生を確保するために、四日市工場と相互に協力して安全衛生活動を円滑に推進するために協議会として設置しました。

災防協の組織図



※J-ENG: JSRエンジニアリング株式会社(JSRグループ企業)の略称
 ※6部会とは会員会社を、配管(8社)、製缶(11社)、土建(11社)、電計(9社)、保温塗装(6社)、構内(11社)の6業種にグループ分けし部会を設置。

災防協の安全活動紹介

●災防協主催の安全教育



労災事例を題材に、会員会社の安全指導員に集合教育を実施し、他にも体感教育・危険予知訓練(KYT)教育等も行っています。

●「全国安全週間」に合わせて

「全国安全週間」に合わせて、安全大会を開催し、部会・会員各社の安全活動報告と発表及び、安全標語の表彰を行い、安全意識の高揚を図っています。一方、構内では声掛け運動を行い、安全行動を呼びかけています。



災防協全体及び、部会の安全活動報告・協力会社による自社の安全活動の発表

●特別パトロール



3月・6月・10月など定修工事期間には、災防協役員による「特別パトロール」を実施しています。

●安全週間啓蒙活動



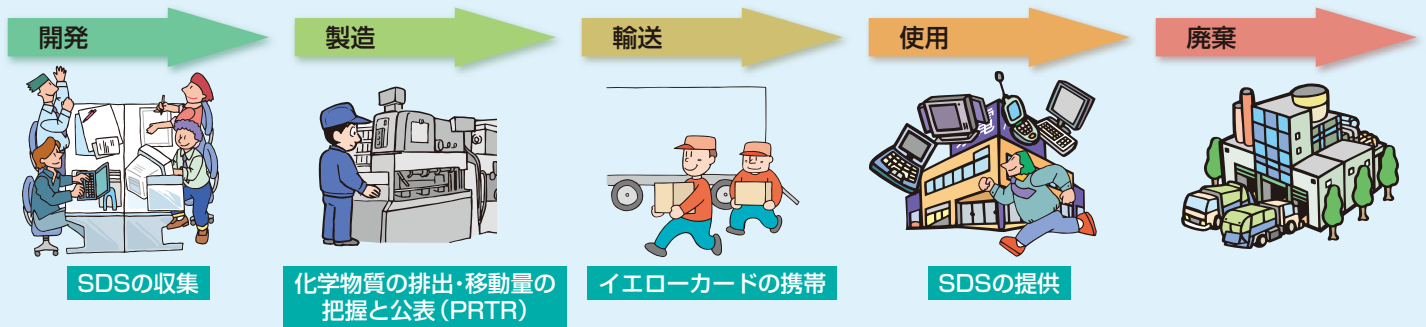
毎年、7月1日の安全の日には入構者全員に対し、2016年度の安全標語を印刷したクロスを配布し、安全行動を呼びかけています。

●安全標語の表彰



2016年度
 災防協安全標語 第一位
 「毎日変わる危険個所
 気づいたあなたが担当者
 見て見ぬ振りせず
 報・連・相」

物流安全及び化学品・製品安全のために どのような活動をしていますか？



原材料のグリーン調達

安心、安全な原材料の調達を進めるために、原料となる化学物質を4つの区分に分類して管理する「JSR化学物質管理指針」を制定し、運用しています。

※原材料のグリーン調達

環境にやさしい方向に原料転換等を図っていくこと。

●PRTR(Pollutant Release and Transfer Register): 化学汚染物質排出・移動登録制度への対応

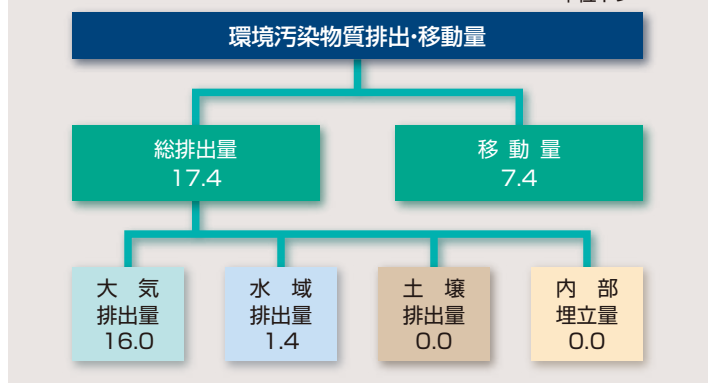
PRTRとは、有害なおそれのある化学物質が、どのくらい大気や水域や土壌に排出されたか、または廃棄物としてどのくらい排出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

四日市工場で2015年度に取扱った化学物質の内、30物質が届出対象となっています。

化学物質4つの区分

①禁止物質	原料、製品に使用しない物質
②制限物質	<ul style="list-style-type: none"> 法令で使用制限される物質 段階的に廃止される物質 顧客の要請によるグリーン調達等、代替要求物質 使用制限したほうが良いと判断される物質
③リスク管理物質	<ul style="list-style-type: none"> 法令で使用量管理を要求される物質 自主的に排出削減対策を進める物質
④一般管理物質	その他、上記以外の物質

2015年度化学物質排出量 (PRTR法) 単位:トン



イエローカードによる物流安全の確保

製品の輸送中に万が一事故・災害が起こった場合、迅速な対応が図れるように運転手に緊急連絡カード(イエローカード)を常時携帯させるとともに、定期的な教育を行うことで輸送時の環境・安全を確保しています。

四日市工場では、特別管理産業廃棄物(引火性、強酸、強アルカリ等)の輸送についても、自主的にイエローカードを適用しています。



SDSの提供による顧客の安全確保

全ての自社製品についてGHS*1に準じたSDSを整備して、顧客に環境・安全情報を提供しています。

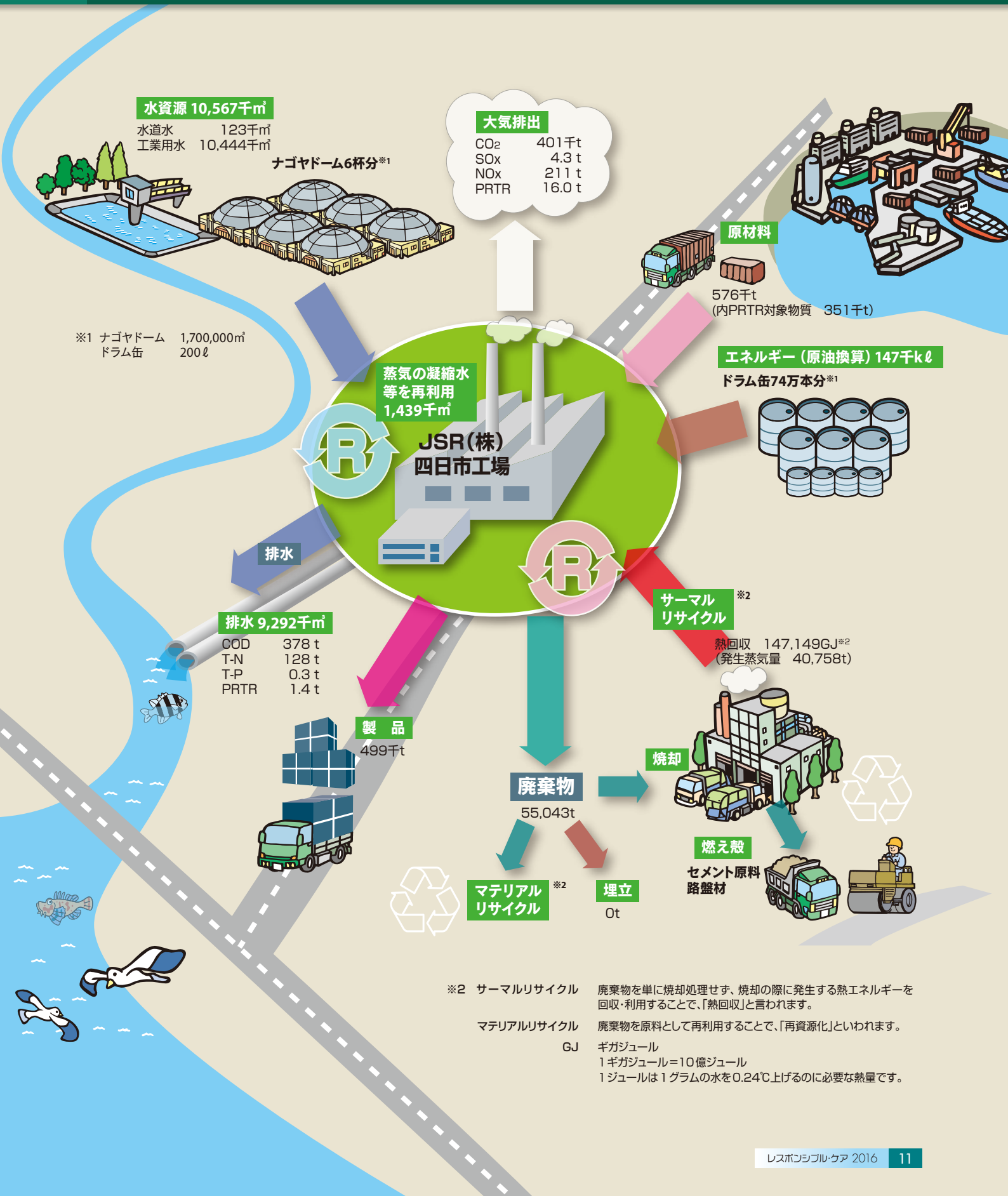
*1 GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals: 化学品の分類および表示に関する世界調和システム)

①化学品を危険有害性に応じて分類し、②製品の包装容器にラベルで表示し、③SDSに内容を記載し提供することを世界的に統一するしくみです。国内では労働安全衛生法で対象物質含有製品のラベルとSDSについてGHS化が義務づけられています。

*2 SDS(Safety Data Sheet)安全データシート

環境保全のために何を していますか？

2015年度四日市工場の事業活動と環境への関わり



※2 サーマルリサイクル 廃棄物を単に焼却処理せず、焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用することで、「熱回収」と言われます。

マテリアルリサイクル 廃棄物を原料として再利用することで、「再資源化」といわれます。

GJ ギガジュール
 1ギガジュール=10億ジュール
 1ジュールは1グラムの水を0.24℃上げるのに必要な熱量です。

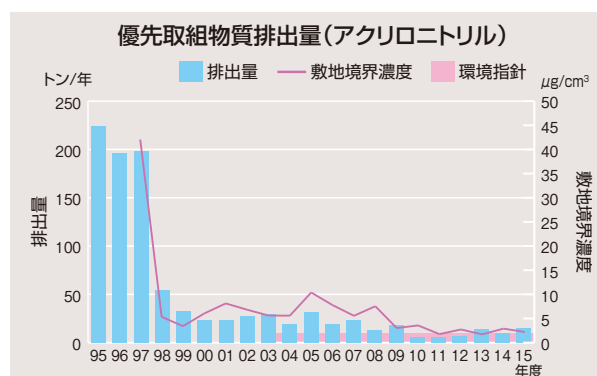
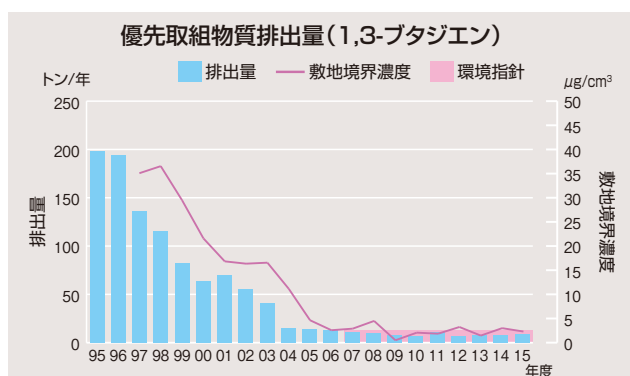
有害な汚染物質への対応

有害大気汚染物質については、日常管理の強化、除害設備の設置、運転方法の変更などを行い、排出量の削減を継続的、計画的に行っています。

有害大気汚染物質の削減の取り組み

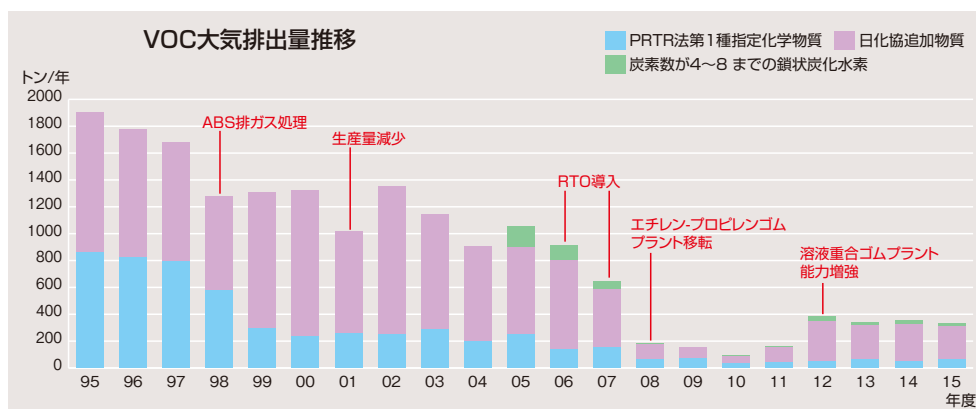
有害大気汚染物質とは、継続的に摂取すると人の健康を損なう恐れのある物質で、大気汚染の原因となるものと規定されています。四日市工場で使用するブタジエン、アクリロニトリル、ジクロロメタンはその中でも優先的に排出抑制が必要な物質として指定されており、計画的に排出低減策を実施し、工場敷地境界において定期的に濃度分析を行って効果を確認しています。ジクロロメタンについては環境基準を遵守しています。

●排出実績



VOC対策

VOCは揮発性有機化合物 (Volatile Organic Compounds) の略語で、四日市工場では、スチレンやシクロヘキサン等が該当します。排出量を削減するために、合成ゴムの仕上げ系排ガスの蓄熱燃焼設備 (Regenerative Thermal Oxidizer: 略称 RTO) で燃焼しています。



●VOC規制への対応

2006年4月1日より大気汚染防止法で「VOC 排出規制」が始まり、四日市工場では溶液重合ゴムプラントの乾燥機6台をVOCを排出する特定施設として届出しています。排出施設から出るVOCをRTOで燃焼処理して、規制値以下を遵守しています。

土壌や地下水への管理

四日市工場では、『三重県生活環境の保全に関する条例』に従い、土壌調査、地下水調査を行い、問題の無いことを確認しています。

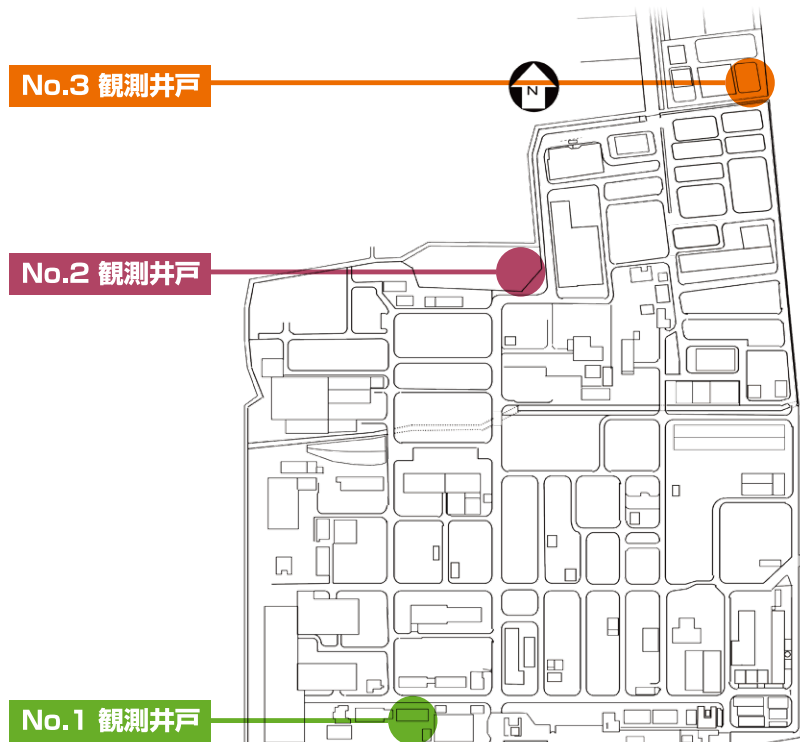
四日市工場における土壌・地下水調査

- 3,000㎡を超える土地の形質変更時に土壌調査を行っており、2015年度は、正門側新研究棟の建設工事に伴い土壌調査を行い、問題無いことを確認しています。
- 工場敷地内3箇所の観測井戸でJSRグループ企業を含め、過去に使用履歴のある物質について地下水調査を行い、2015年度も問題ない事を確認しました。

地下水分析の対象物質

分類	土壌汚染対象物質
第1種特定物質	四塩化炭素
	ジクロロメタン
第2種特定物質	シアン化合物
	鉛及びその化合物
	フッ素及びその化合物
第3種特定物質	ホウ素及びその化合物
	チウラム
	有機リン化合物
地下水汚染対象有害物質	
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	

四日市工場内の地下水調査地点(観測井戸)の位置



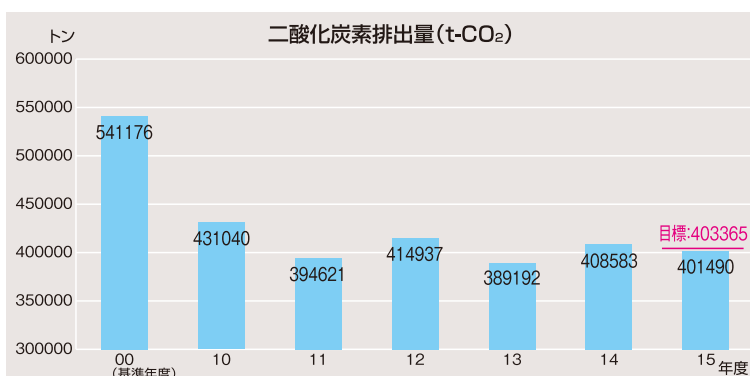
地球温暖化防止の取組み

四日市工場の二酸化炭素(CO₂)排出量実績

三重県では、事業者及び県民の自主的かつ積極的な地球温暖化対策を推進することを目的として、平成25年12月に「三重県地球温暖化対策推進条例」が新たに制定されました。

四日市工場では、これまで計画的に省エネルギーテーマを推進し、二酸化炭素(CO₂)等の温室効果ガス排出量の削減に努めてきておりますが、今後も三重県地球温暖化対策推進条例に則り、自主的かつ積極的な地球温暖化対策を推進していきます。

2015年12月より、トラブルで一時停止していた汚泥乾燥施設が稼働しました。CO₂として約1万5千トンの削減が見込まれます。



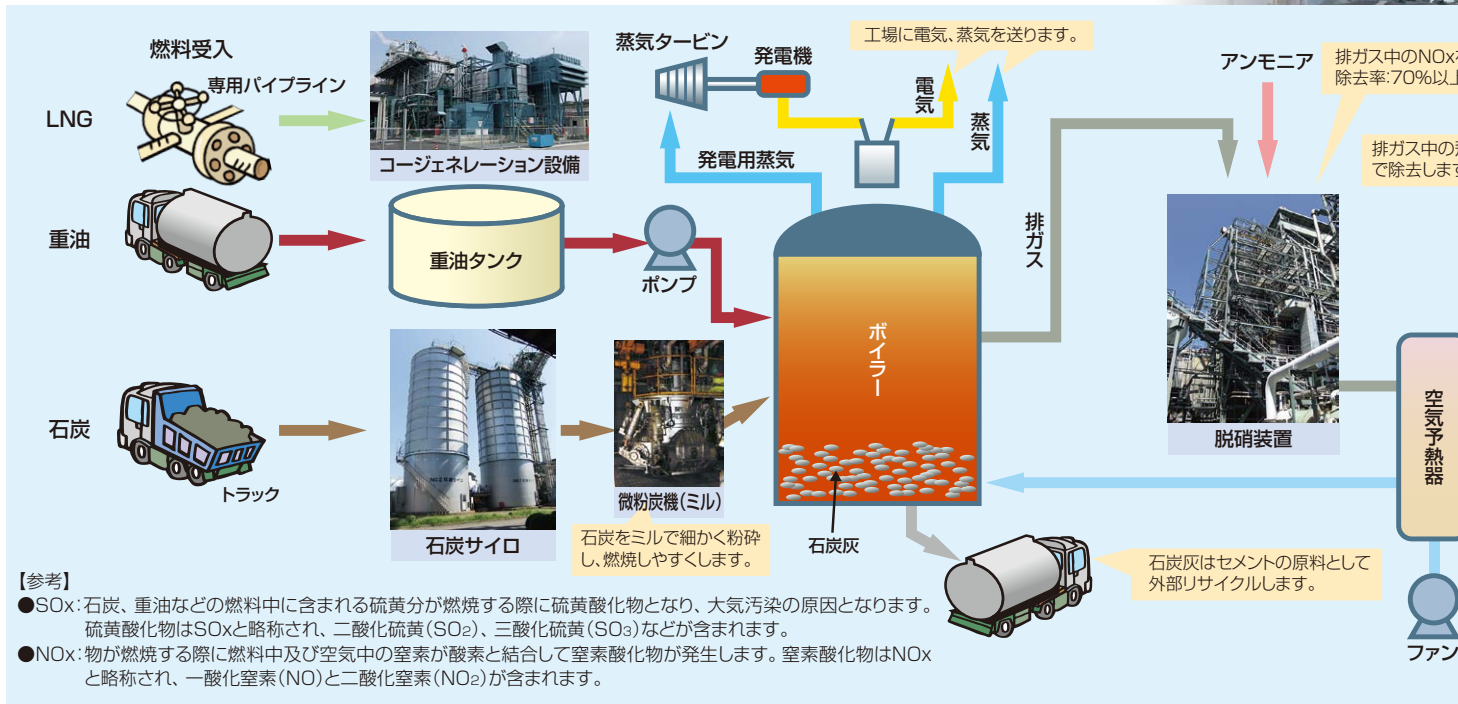
●工場エネルギー管理システムの運用と今後について

工場エネルギー管理システム(FEMS: Factory Energy Management System)を2014年11月に構築し、蒸気・電気・排水処理状況等の運用管理を行っています。今後、他工場(千葉・鹿島)でも運用出来るか検討を行っています。

空気を汚さないためにどのような工夫をしていますか？

四日市工場ではボイラーによる自家発電を行っています。ボイラーの燃料として使用する重油、石炭には硫黄や窒素が含まれており、燃焼すると硫黄酸化物(SOx)、窒素酸化物(NOx)になります。これらは、光化学スモッグの発生などの大気汚染の原因となるため、脱硫装置や脱硝装置で排ガスを処理しています。四日市工場のボイラー排ガス処理設備について紹介します。

四日市工場の排ガス処理設備



水を汚さないためにどのような工夫をしていますか？

三重県では伊勢湾の富栄養化対策としてCOD*¹、窒素、りんを含めた第7次水質総量規制が2012年4月1日から実施されています。

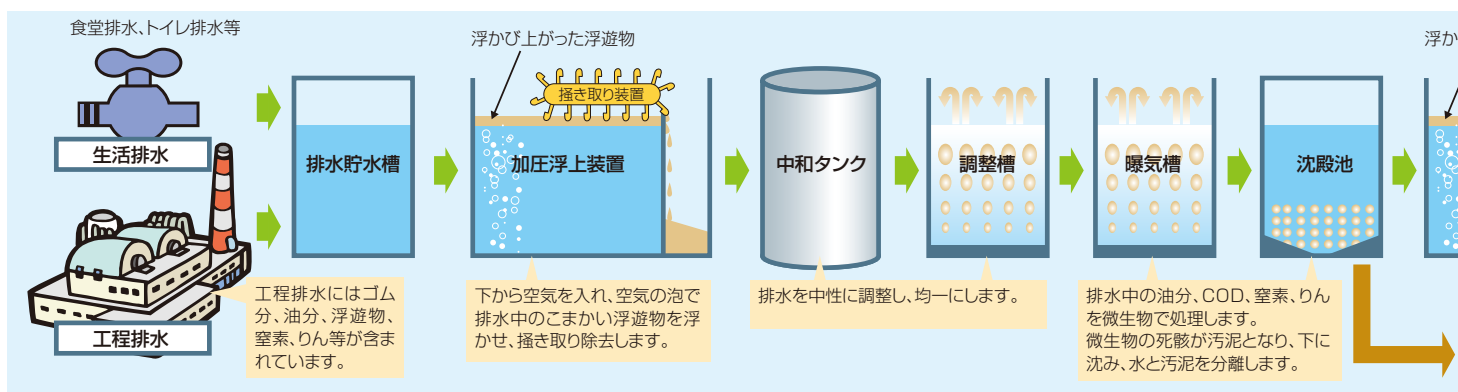
四日市工場では水質向上に向けた取り組みを継続して行っており、第7次水質総量規制の基準を満たす水準に達していますが、更に汚濁負荷の低減を目指して水質向上を図っています。

2015年度、製造技術第1センター試験チームにおいて「迅速BOD*²計試験方法の確立」をテーマに活動し、環境支援等により環境への貢献に優れた成果があったとして、環境功労表彰にノミネートされ、第8次水質総量規制に向けた取り組みを日々行っています。

四日市工場の排水処理設備を紹介します。

- *1 COD (Chemical Oxygen Demand): 化学的酸素要求量
水の中の有機物が、化学的に酸化分解されるときに必要なとする酸素の量。数値が大きいほど水が汚れていることになります。
- *2 BOD: 生物化学的酸素要求量(水質汚れの指標の一つ)

四日市工場の排水処理設備



クリーンガスにして
大気放出しています



を除去します。

飛灰をフィルター
す。

測定データはリアルタイムで、
県に報告されています。

排ガス中のSOxを除去します。
除去率:99%以上



SOx、NOx
連続測定



バグフィルター

飛灰



脱硫装置



水酸化マグネシウム
循環ポンプ

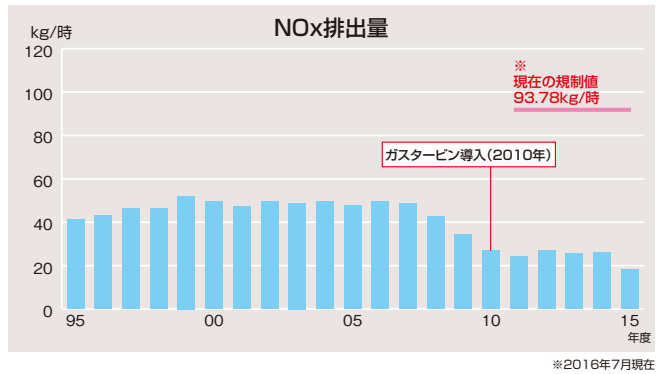
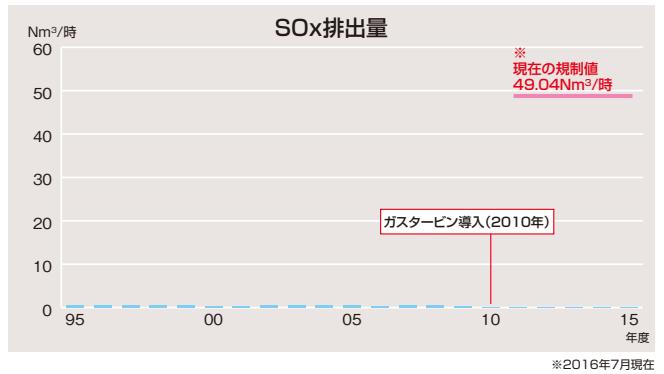
飛灰はセメントの原料として
外部リサイクルします。



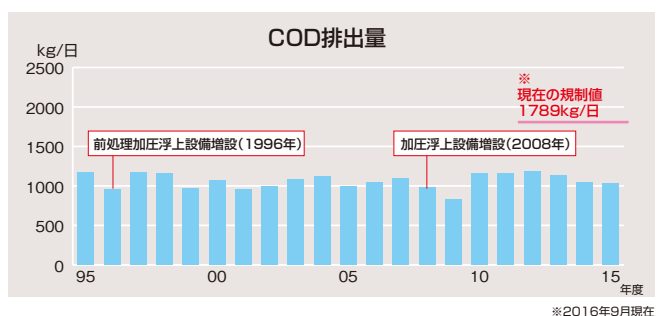
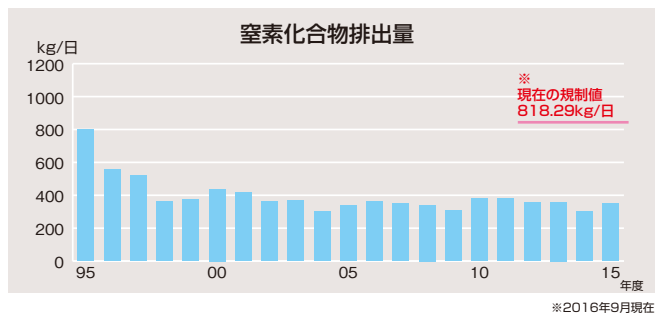
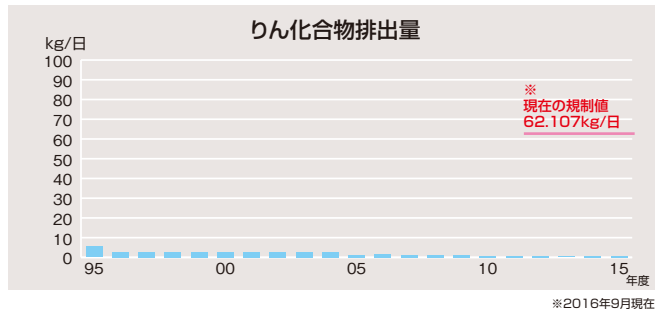
石炭灰サイロ

空気

四日市工場におけるSOx、NOx排出量の推移



四日市工場の排水データの推移



中和タンク

加圧浮上装置

沈殿池

加圧浮上装置

び上がった浮遊物



掻き取り装置

加圧浮上装置

排水貯水槽



排水流量
COD、窒素、
リン連続測定



放流

COD、窒素、りん
は連続測定を行
っています。

排水処理した水
を雨池川に放流
しています。

廃棄物処理設備に
続きます

廃棄物の適正処理

四日市工場では廃棄物焼却炉を2基設置し、工場から発生する汚泥と近隣グループ企業で発生する廃溶剤を産業廃棄物として焼却処理しています。焼却炉の運転状況や排ガス分析、焼却灰中のダイオキシン等について基準値以内であることを確認しています。

廃棄物処理施設の維持管理情報をJSRのHPで公開しています。

<http://www.jsr.co.jp/csr/2016/environment/data.shtml>



廃棄物の適正管理

四日市工場では、廃棄物ゼロに向けて全社員が廃棄物の発生抑制(リデュース)、再利用(リユース)、有効利用(リサイクル)等の活動を展開し、廃棄物の削減に取り組んでいます。

過去5年間の生産量と廃棄物の発生量を見ると、更なる取り組みが必要です。2015年度、製造第2部 製造第1課で「廃棄溶剤のリサイクル化による環境負荷の低減」テーマに取り組み、環境負荷低減等による環境への貢献に優れた成果があったとして、環境功労表彰にノミネートされました。

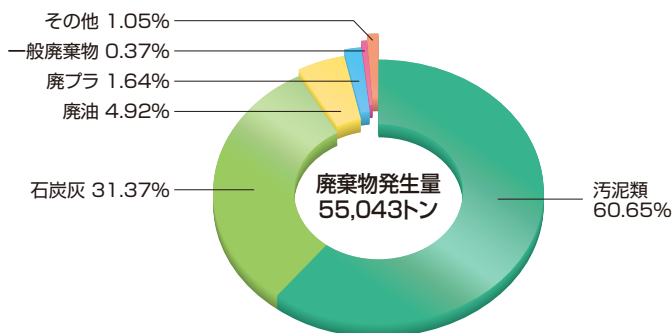
●廃棄物ゼロエミッション活動

2015年度の廃棄物総発生量は55,043トン、最終埋立量は0トンで埋立率0.0%とゼロエミッション達成を2003年度より継続しています。その活動として、廃棄物発生量の抑制や有価物化への検討等、リサイクルへの転換に努めています。

●水銀条約への対応

2021年以降、電池・化粧品や血圧計など水銀を含む9種類の製品について製造・輸出・輸入が禁止となります。四日市工場ではそれに伴い、設備・機器・分析機器・体温計等、水銀が使用されている物をリストアップし、早期に水銀処理を行える様、準備を行っています。

2015年度廃棄物発生量内訳



「廃棄物情報の提供に関するセミナー」の講演

2016年2月2日に愛知県の名古屋市公会堂で、環境省主催の「廃棄物情報の提供に関するセミナー」が開催されました。

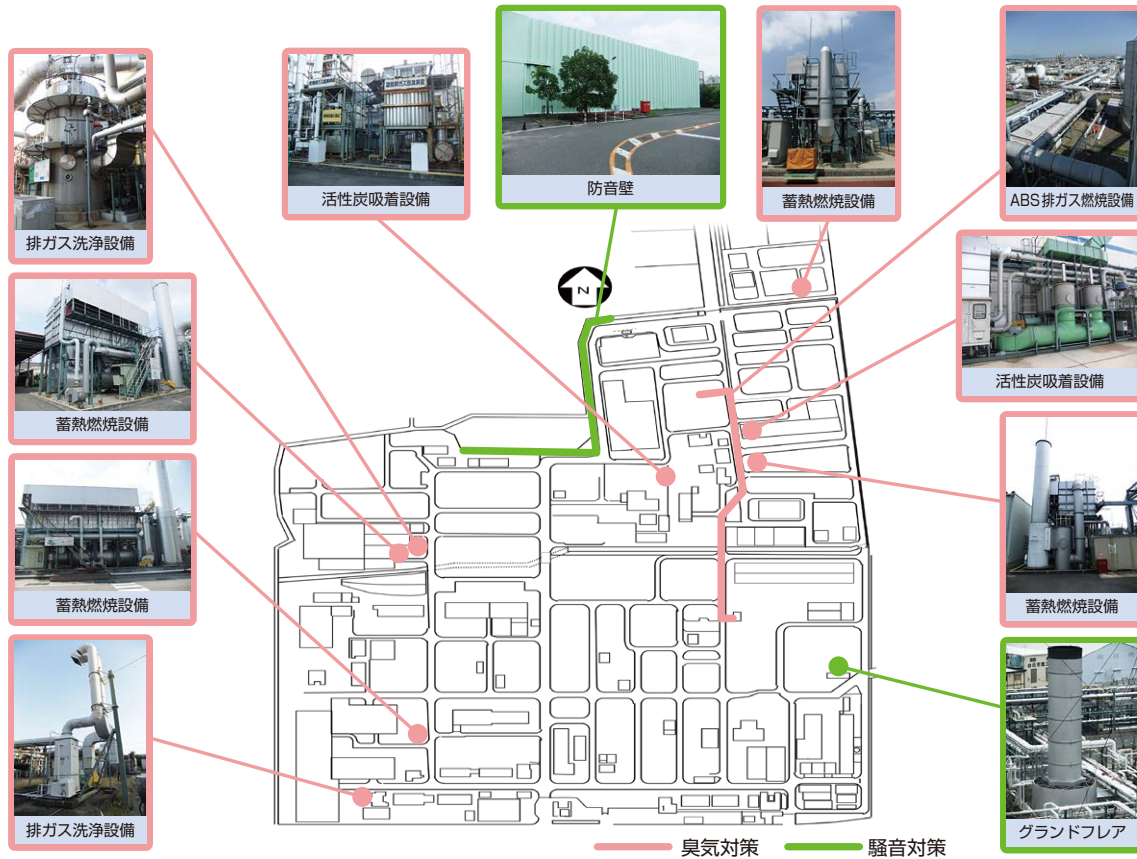
このセミナーは、廃棄物処理法に規定されている「廃棄物の適正な処理に必要な情報を提供する(WDS活用等)」ことの重要性について再認識を図り、適正な廃棄物処理を推進することを目的としたものです。環境省をはじめ県廃棄物行政、廃棄物の排出や処理に係る団体・企業より、総勢約60名が参集して開催されました。

JSRは排出事業者の立場で、四日市工場環境保安部の武田部長が「産業廃棄物の排出及び管理に係る取り組み」と題して、廃棄物処理に係る管理体制を中心に約1時間の講演を行いました。廃棄物の適正処理に向けJSRの取り組みが高い評価をいただきました。



四日市工場における環境対策の紹介

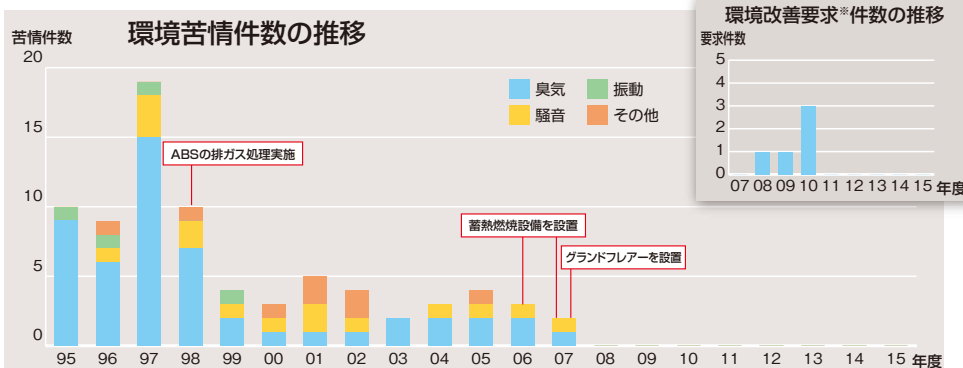
●環境対策設備配置図



工場に寄せられた環境情報への対応

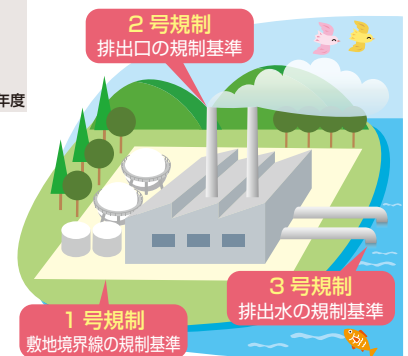
2015年度は、四日市工場が直接の原因となる環境苦情の発生はありませんでした。

- ・ 騒音・振動が想定される工事については事前に検証し、対策を行ってから工事を進めています。また工事中も環境測定を行っています。
- ・ 毎月1回工場周辺の敷地境界で騒音と振動を測定し、近隣自治会へ報告しています。



※環境改善要求とは、行政及び近隣にお住まいの方々から寄せられた環境情報で、四日市工場が原因と特定されるものの内、事前に近隣にお住まいの方々に連絡を行っていたもの。(2007年度より集計を行いました。)

四日市市は2016年1月1日より、悪臭防止法に係る特定物質濃度規制から臭気指数規制に施行が変更(1号規制の敷地境界線の規制基準)になるため、四日市市との公害防止協定書の見直しを行いました。協定書には濃度測定と指数測定の両測定を行う事や、排水(3号規制の排出水の規制基準)についても自主測定する事を織り込みました。また四日市工場特有のゴム臭(2号規制の排出口の規制基準)についても、臭気発生抑制と管理強化に努めていきます。



地域社会への取組みは どのようなことをしていますか？

四日市工場では『地域社会との共生』という基本姿勢のもとで、工場周辺の美化活動や工場視察会、各種ボランティア活動等、地域の皆様とのふれあいを大切に活動を行っています。

地域社会との対話

●ハーモニーフェスタ

2015年度の「JSRグループハーモニーフェスタ」は約1,800名の参加があり皆様に楽しんで頂きました。



ハーモニーフェスタ

●近隣高校での講演会開催

近隣高校約200名に対して、「海外拠点における異文化理解について」という演題で講演を行いました。



講演会開催

清掃活動

四日市工場では、毎月第2金曜日に工場周辺の一斉清掃を行っています。また、伊勢湾漂着物清掃の一環として答志島の清掃活動に参画しています。



工場周辺の一斉清掃



答志島の清掃活動

小中学校への環境教育

近隣小学校で毎年行っている理科の出前授業を、今年も開催しました。JSRの製品について紹介した後、合成ゴムの凝固実験やJSRの環境保全に関する取り組みについて学んでもらいました。



小学校理科授業

四日市こども科学セミナーへの参加

四日市市教育委員会主催の「第4回四日市こども科学セミナー」に参画しました。JSRブースでは6回の授業を行い、合計約120名の子供たちに合成ゴムの凝固実験を体験してもらいました。



四日市こども科学セミナー

地域産業担い手の技能者育成事業への参画

2016年7月25日(月)から7月29日(金)までの5日間、四日市工業高校、四日市中央工業高校、津工業高校から計9名の高校生を受け入れました。



高校生職場体験実習

中学生の職場体験の受入れ

四日市市内の3つの中学校から、男子生徒8名の職場体験を受け入れました。期間中は、工場パトロール、試験分析、特別消防訓練などを体験してもらいました。



中学生の職場体験

社会貢献

毎年、化学総連三重地連では、児童養護施設の子どもたちを『デイキャンプ』に招待し、楽しいひと時を過ごしてもらいました。



化学総連ボランティア

四日市工場では、社会貢献活動の一環として献血活動を行っており、毎回80名近くの社員より協力を得ております。



献血活動

伊勢志摩サミットの対応

四日市工場では、伊勢志摩サミットでの開催に伴い、国や行政からの要請により、テロ対策として工場入場の強化や、工場周辺のパトロールを兼ねて清掃活動も行いました。



伊勢志摩サミットへの対応

海外研修生の受入

ICETT(公益財団法人 国際環境技術移転センター)の要請に応え、海外の研修生を受け入れています。

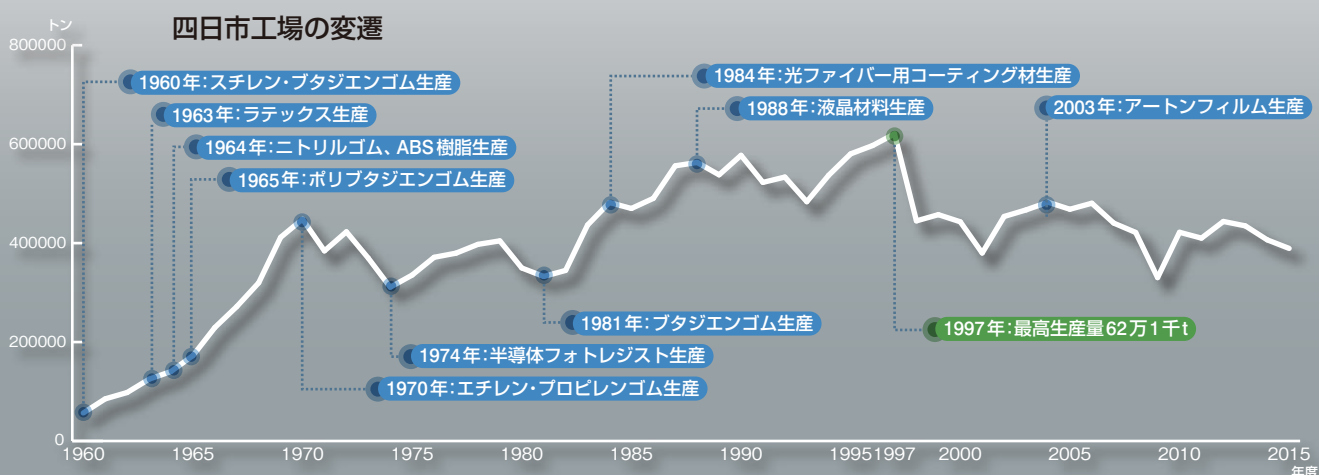


海外研修生受け入れ(ICETT)

四日市工場のあらし



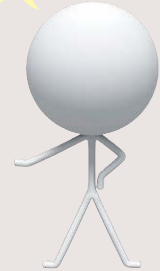
事業概要	工場の名称	JSR株式会社 四日市工場	
	所在地	三重県四日市市川尻町100	
	業種	化学工業	
	主要生産品 (生産能力:トン/年)	乳化重合スチレン・ブタジエンゴム (含アクリロニトリル・ブタジエンゴム、ハイスチレン含有ゴム、特殊ゴム)	255,000 トン/年
		ラテックス	120,000 トン/年
		溶液重合スチレン・ブタジエンゴム、水添ポリマー、他	70,000 トン/年
		ブタジエン(中間品)	148,000 トン/年
	事業所の従業員数	2,040人(2016年4月1日現在)	
	ISO14001取得	1998年3月6日認証取得	



1957年、合成ゴム消費量の増大に対応するため、国策的見地から政府ならびに業界、石油業界、石油化学業界等の出資により設立されました。(旧社名:日本合成ゴム株式会社) 1960年、四日市石油化学コンビナートの一環として、米国のエッソ社、フードリー社及びグッドイヤー社等から、当時世界で最も進んだ技術を導入し独自の設計により建設された、日本初のスチレン・ブタジエンゴム(SBR)の本格生産が開始された拠点です。



本レポートをお読みいただきありがとうございます。
四日市工場では『地域社会との共生』という基本姿勢のもとで環境保全対策や安全対策、地域の皆様とのふれあいを大切にした活動を継続してまいります。



レスポンシブル・ケア
2016



JSR株式会社

四日市工場 環境保安部

三重県四日市市川尻町100 〒 510-8552

Tel:059-345-8050

Fax:059-345-8128

ISO9001
認証マーク



JQA-0396

ISO14001
認証マーク



JQA-E-90119



この印刷物は環境に配慮した植物油
インキを使用しています。